

須佐神社から龍頭が滝までを、歩いてみた（その1：その所要時間は）

前回は紹介しましたが、松江藩士で歌人でもあった森為泰（もり・ためひろ）は、旧暦明治5年4月30日に、須佐神社に参拝。翌5月1日には、尾崎坂を越えて、松笠の龍頭橋を経由して、龍頭が滝を見物してから、掛合に向かい、知人の家で宿泊しました。移動手段は、もちろん徒歩です。では、彼は、どれくらいの時間をかけて移動したのか。その時間を知るために、先月3月に、須佐神社を出発して、龍頭が滝までを、実際に歩いてみました。

まず、その距離ですが、須佐神社鳥居前から龍頭が滝の下の駐車場までが、13.4km（自動車で測定）。駐車場から滝までは、0.4km（国土地理院の地図で計測）。合計13.8kmの道のりです。

これを、(1)須佐神社（標高101.3m）～菅原集会所（標高327.6m）6.7km (2)菅原集会所～龍頭橋（標高217.5m）3.3km (3)龍頭橋～龍頭が滝あずまや（標高351.1m）3.8km の3区間に分けて歩きました。

(1)の区間については、旧県道湖陵掛合線を歩きました。須佐神社鳥居前から東に向かい、右折するとすぐに、「尾崎坂」と呼ばれる急勾配のヘアピンカーブが始まります。その後も、上り坂が続き、やがて、雲南市と出雲市の市境である、三坂に着きます。ここは、須佐神社から5kmほどの地点で、標高は394.0m。須佐神社・龍頭が滝間の最高地点であり、須佐神社の標高は101.3mですから、標高差約300mの坂道を登ったこととなります。これより下り坂です。

(2)の区間については、標高差約110mの改良された県道を、下るだけです。とても楽なコースです。(3)の区間については、標高差約130mの坂道をじわじわ登っていくので、案外たいへんな坂道のコースです。

では、その所要時間ですが、休憩時間も入れて、(1)の区間が83分、(2)の区間が38分、(3)の区間が50分で、合計171分かかりました。時速を計算すると、全体では、約4.8km/時(13.8÷171×60)。下り坂では、約5.2km/時(3.3÷38×60)となり、少し速くなります。道路の改良状況や、個人差などはあったでしょうが、おそらく、森為泰も、須佐神社・龍頭が滝間を、3時間ほどかけて、移動したことでしょう。

さて、この須佐神社・龍頭が滝コース途中の、見どころも紹介しましょう。まず、尾崎坂の道路わきには、昭和の道路改修工事のときに発見された、古墳の横穴があります。「尾崎横穴古墳群」と呼ばれるこの遺跡からは、須恵器（平瓶、坏、高坏、壺など）が出土したそうです。

次に、松江藩のお殿様は、「巡郷」と称して、藩内を視察しています。龍頭が滝を見てから、須佐神社に参拝したという記録もあります。尾崎坂も通ったでしょうから、坂道を難儀しながら進む、その行列の姿を想像するのも面白いです（あの不昧公も龍頭が滝に来ています）。

また、三坂から南に折れて少し進むと、江戸時代の「三坂番所」があったあたりに着きます。「番

所」とは、江戸時代に通行人の検査などを行う施設のことですが、当時、松笠村や原田村は松江藩に、穴見村や刀根村は広瀬藩に属していました。とすると、三坂のあたりは、両藩の境に当たります。鳥屋が丸の横の往還を往来する、他藩の人々を、役人がチェックしていたのかもしれないね。

（以下、次回に続く）



古墳の横穴が見える